

## 離乳食，幼児食に関する研究

### — 離乳食におけるベビーフードの使用状況 —

高橋悦二郎，菊池ふみ子

#### 要約

母子に対する栄養指導の充実・向上等を図るために、9～12か月児をもつ母親 295名を対象に、離乳食におけるベビーフード（市販の離乳食品）の使用実態調査を行った。約10年前の同地域における調査結果（1978年、前回の調査）と比較検討した。

1. 離乳の開始時期は、前回、今回ともに平均すると5か月であった。また、離乳2回食の開始月齢は6か月頃、3回食の開始月齢は9か月頃であった。その開始月齢にはかなりの巾がみられた。そして今回の調査結果は、離乳開始月齢のピークが若くなってきている。
2. ベビーフードの使用状況は、9～10か月頃でみると今回は使用者が66%、未使用者が32%であり、前はそれぞれが37%、57%であった。また使用者においては、ベビーフードを毎日使用する人が11%から14%となり、使用者の増加とともに使用頻度も増加傾向にある。
3. ベビーフードの使用動機をみると、前回より「手作りは時間がかかるから」「作る時間が少ないから」の割合が増えている。また、ベビーフードを使用しない理由をみると、「自分で作ったほうが中身がわかって安心だから」は前回今回ともに理由の第一位である。「自分で作ったほうが我が家の味付けができるから」が今回第二位となった。
4. 離乳食におけるベビーフード利用と手作りの割合は、今回のほうがベビーフードの利用割合が高くなっていた。離乳食とは言えないが果汁は手作りの割合が減り、ベビーフードで一番に利用されている。
5. ベビーフードの利用者は、核家族で、専業主婦の母親が、第一子の時に使用する傾向がみられる。

見出語：ベビーフード，使用状況，使用動機，ベビーフードの利用者

## 研究目的

昭和50年代よりベビーフードの生産量は年間400kg前後を維持するようになった<sup>1)</sup>。一方出生児数が低下傾向にある現在、乳児一人当たりのベビーフード消費量は増加していると推測される。この間に缶詰製品の製造は中止（昭和62年）となり、新たに真空パックやレトルト製品の開発がみられ、消費者（養育者）は多様な形態、種類からベビーフードの選択が可能となってきた。

「離乳の基本」<sup>2)</sup>が発表（昭和55年）されてから約10年が経過しており、乳児をとりまく家庭環境は大きく変化してきていると考えられる。

そこで離乳食においてベビーフードはどのように利用されているのかを知る目的で、使用実態調査を行い、約10年前の調査結果<sup>3)</sup>（前回の調査）と比較検討した。

## 調査対象および調査方法

埼玉県T市に居住する生後9か月～12か月児をもつ母親を対象に、離乳の進行状況および進行上の問題、ベビーフード使用の動機や実態などについてのアンケート調査を実施した。

調査期間は1991年3月～7月である。対象となる家庭へ調査用紙を郵送し、10か月児健診および1才児健康相談（4月～7月）来所時に回収した（回収率70.4%）。前回の調査は1978年9月～11月に実施され、今回の調査結果と比較するために10か月児健診受診者のみを抽出した。対象乳児の月齢別人数分布を表1に示す。男児に対する女児の比率は今回の調査では0.84、前回の調査では1.2である。

カウプ指数は、今回の調査は13.9～21.8、前回の調査では14.9～22.0の範囲であった。

出生順位の分布は、今回の調査は第1子167名（57%）、第2子102名（35%）で合わせて全体の9割を占めている。前回の調査でも第1子43名（48%）、第2子40名（44%）で合わせて全体の9割を占めていた。

母親の年齢は、今回の調査は20～39歳の範囲にあり、平均年齢は28.7±4.0歳となる。前回の調査では22～40歳の範囲で平均年齢は27.8±2.9歳であった。

母親の有職者は、今回の調査は50名（16.9%）前回の調査では12名（13.0%）であった。約8割が無職者（専業主婦）である。

家族構成は、核家族が最も多く、今回の調査は258世帯（87.5%）、前回の調査では71世帯（81.6%）であり、核家族が若干増加している。

## 調査結果および考察

### 1. 離乳食の作り手

今回の調査は、母親が作っている場合281名（95.3%）、祖母と母親が作っている場合9名（3.1%）、祖母が作っている場合2名（0.7%）両親が作っている場合3名（1.0%）である。なお、母親が作っている場合には、その他に保育園という記載のあった有職者（常勤）3名を含んでいる。

前回の調査でも今回と同様に母親が作っている場合87名（95.61%）が1番多く、他に祖母と母親が作っている場合4名（4.4%）だった。

核家族の増加により離乳食の作り手に母親のみでなく父親も参加する兆しがみえている。

## 2. 離乳の進行状況

### 1) 離乳の開始月齢

離乳開始の基準<sup>2)</sup> (ドロドロした食物を与える時) に従って離乳開始の月齢をみると表2に示す通りである。3か月以前に離乳を開始した割合をみると今回は7.8%、前回は18.7%であった。また7か月以降に離乳を開始した割合は今回1.0%、前回1.1%であった。今回の調査において9か月開始の1名はアレルギーのためという記載であった。殆どの乳児が6か月までに離乳を開始しており、そのピークは4か月である。

一方、前回の調査での離乳の開始月齢は3～7か月の範囲にあり、そのピークは5か月であった。

### 2) 離乳の2回食および3回食を開始した時期

今回の調査において2回食の開始月齢は、3か月～10か月に分布している。6か月が39.2%、7か月が37.2%、8か月が13.0%であり6・7か月の開始が多く、96.6%が8か月までに2回食を開始している。

3回食では4か月～11か月に分布しており、8か月が18.7%、9か月が41.7%、10か月が24.5%である。9か月の開始がピークで、96.0%が10か月までに3回食を開始している。

前回の調査では、2回食の開始時期は4か月～9か月に分布していた。6か月が30.0%、7か月が38.9%、8か月が18.9%であり、8か月までに97.8%が2回食を開始していた。また、3回食では6か月～10か月に分布していた。7か月が13.8%、8か月が41.5%、9か月が38.5%となっており、6割が8か月までに3回食を開始していた。

以上のように、離乳開始時期・2回食・3回食の時期を平均的にみると、5か月頃開始、6か月頃2回食、9か月頃3回食という進み具合で、離乳の基本<sup>2)</sup>におおよそ即している。しかし、今回の調査からは離乳開始月齢、2回食および3回食の開始月齢の中が前回より広がってきており、個人対応がなされているとも考えられる。

### 3) 離乳食の中断

健康を害して離乳が進まなかった時期があると答えた人は、全体の34%だった。風邪、下痢風邪が原因で下痢をおこした場合、突発性発疹による発熱など乳児期にみられる病名があげられていた。

## 3. 9・10か月頃のベビーフードの使用状況

前回の調査対象が9～10か月児であったので今回の調査においても9～10か月頃の状況を調査した。

### 1) 使用者・未使用者の割合と使用頻度

図1に示すように、今回の調査は、使用者が66%、未使用者が32%である。前回の調査では使用者が37%、未使用者が57%であった。約10年間においてベビーフードの使用者が2倍近く増えている。

また、使用者におけるベビーフードの使用頻度は、今回の調査では毎日使用する人が46名(16%)で最も多く、次に週3回が41名(14%)、週に2回が35名(12%)である。前回は、毎日使用している人が10名(11%)、週に幾度か使用している人は14名(15%)であり、使用頻度においても増加傾向にあるといえるだろう。

## 2) 9～10か月頃の3回の食事におけるベビーフード利用と手作りの状況

今回の調査で「離乳食を与える場合、どのような与え方が多いですか。朝食・昼食・夕食それぞれに対し、一番多いと思われる与え方に○をつけて下さい」という質問をした。三食の利用状況をパタン化してみると、三食とも手作りが114名(41.8%)で最も多く、続いて三食とも手作りとベビーフードの併用で40名(14.7%)、朝食と夕食が手作りで昼食が併用のパタンが32名(11.7%)、昼食と夕食が手作りで朝食が併用のパタンが22名(8.1%)、朝食と昼食が手作りで夕食が併用のパタンおよび朝食と昼食が併用で夕食が手作りのパタンがともに14名(5.1%)であった。なお、三食ともベビーフード利用は見られなかった。

## 4. ベビーフードの使用動機と使用しない理由

### 1) 使用動機

今回の調査では、表3に示すように「手作りは時間がかかるから」をあげた人が99名(20.9%)で最も多く、次に「離乳食として適した味だと思うから」が85名(17.9%)「栄養があると思うから」が74名(15.6%)「作る時間が少ないから」「衛生的だと思うから」が、それぞれ58名(12.2%)、57名(12%)である。

なお、前回との比較のために理由項目を同じくして設問したので、その他の理由に「手作りの際の味付けや形状の参考のため」「レバーなど、肉や魚をドロドロ状にするのは難しく、ベビーフードは理想的ななめらかさで、食べやすそうだった」「外出時に便利」と記載されていた。

前回と比較して、「手作りは時間がかかるから」「作る時間が少ないから」が高率を示している。

### 2) 使用しない理由

今回の調査では、表4に示すように「自分で作った方が中身がわかって安心だから」をあげた人が76名(21.1%)で最も多く、次に「自分で作ったほうが我が家の味付けができるから」が69名(19.2%)、「自然の味を覚えないから」が52名(14.4%)、「ベビーフードは味がよくないと聞いたから」28名(7.8%)、「食品添加物が心配だから」23名(6.4%)の順になっている。

なお、その他の項目では「経済的理由」「大人のおかずから取り分けた方が楽である」「子供がベビーフードを嫌がり、手作りを喜ぶ」

「ベビーフードの量的不満」があげられた。また「自分で作ったものを食べてほしい」「子供のために作ってあげたい」といった母親の気持ちの表れや「アレルギーがあるため使えなかった」という人もいて、様々な回答があった。

前回と比較すると、「自分で作ったほうが中身がわかって安心だから」は回答率は減少しているが、前回今回ともに理由の第一位である。増加したのが「自分で作ったほうが我が家の味付けができるから」であったが、我が家の味付けには注意が必要であろう。

## 5. ベビーフードと手作りによる離乳食の比較

ベビーフードと手作りを併用している場合はベビーフード・手作りそれぞれにおいて利用したとして集計した。

### 1) 離乳食におけるベビーフード利用と手作りの割合

図2に示すように、前回今回ともにほとんどの料理において手作りがベビーフードより割合が高く、手作りを上回ったのは今回の果汁だけである。また今回の調査のほうが、ベビーフードの利用割合が明らかに高くなっている。果汁は手作りの割合が前回よりも減り、ベビーフードの中でも一番に利用割合が高い。

## 2) 開始（使用）時期

ベビーフードと手作りの与え始めの時期を料理別にみると、表5に示すように、前回今回の調査ともにベビーフードのほうが早い。特に肉料理と魚料理ではベビーフードが6か月頃開始なのに対し、手作りは7か月頃の開始となっている。これはベビーフードのなめらかさ、手軽さが受け入れられたと考えられる。

## 3) 料理別月齢の推移

今回の調査において、料理別ベビーフードと手作りの利用割合を月齢毎にみた。

図3に示すように、全体的にベビーフードの利用割合は月齢を追うごとに高くなり、ある特定の月齢でピークを迎え、その後、徐々に割合は低くなる傾向がみられる。一方、手作りはベビーフードの山を追うような形で、数か月ずれたピークを迎えている。

おかゆ、おじや、肉料理、魚料理および野菜料理の与え始めの時期はベビーフードの利用割合が高いことから、離乳食のきっかけとしてベビーフードを使用しているようである。しかし月齢が進むにつれ、手作りのほうが高い割合を示し、スープ、肉料理、魚料理、野菜料理およびめん類は9～10か月頃でピークを迎えても、その後高い割合を維持している。これは、調理

形態を変えながら大人の食事へと引き継がれていくものと考えられる。

## 6. ベビーフードの使用者・未使用者割合を左右する要因

果汁、スープを除いたベビーフードをある月齢で利用している人を使用者として、どの月齢でも使用していない人を未使用者と分類した。

### 1) 出生順位

表6に示すように、今回の調査では第1子の中では使用者47.5%、未使用者9.2%であり、第2子の中では使用者23.7%、未使用者10.8%であり、1%の有意水準で出生順位によってベビーフードの使用・未使用に差が認められる。

前回の調査では、第1子の中では使用者31.1%、未使用者16.7%であり、第2子の中では使用者23.3%、未使用者21.1%であった。

### 2) 母親の職業

表7に示すように、今回の調査では有職者の中では使用者13.2%、未使用者3.7%であり、無職者の中では使用者63.7%、未使用者19.3%である。

前回の調査では、有職者の中では使用者7.7%、未使用者5.5%であり、無職者の中では使用者50.5%、未使用者36.3%であった。

前回・今回の調査とも有職者が少数のため有職者内での比較には至らなかった。

### 3) 家族構成

表8に示すように、今回の調査では三世大家族の中では使用者7.5%、未使用者5.1%であり、核家族の中では使用者69.5%、未使用者18.0%である。ベビーフードの使用・未使用は5%の有意水準で核家族によって差が認められる。

前回の調査では、三世代家族の中では使用者14.0%、未使用者4.7%であり、核家族の中では使用者44.2%、未使用者37.2%であった。

#### 4) 離乳食の作り手

表9に示すように、今回の調査では母親が作っている場合の中では使用者74.2%、未使用者21.0%であり、祖母と母親が作っている場合の中では使用者1.4%、未使用者1.7%であり、両親が作っている場合の中では使用者0.7%、未使用者0.3%であり、祖母が作っている場合は使用者のみ0.7%である。

前回の調査では、母親がつくっている場合の中では使用者53.8%、未使用者41.8%であり、

祖母と母親が作っている場合は使用者のみ4.4%であった。

以上より、ベビーフードの利用は核家族で、専業主婦の母親が、第1子の時に使用する傾向がみられる。

#### 文献

- 1) 社会福祉法人恩賜財団母子愛育会 日本総合愛育研究所編：日本子ども資料年鑑，pp.163 (1991) 中央出版
- 2) 今村栄一編著：離乳の基本 離乳食幼児食 研究班報告と解説，pp.22 (1981)
- 3) 前掲書2) pp.141—146

表1 対象乳児の月齢別分布

(人)

	9か月児	10か月児	11か月児	12か月児	合計
今回の調査(1991)	43	34	162	56	295
前回の調査(1978)	65	27	—	—	92

表2 離乳開始の月齢別分布 (%)

	今回 (1991)	前回(1978)
2か月	1.4	0
3か月	6.4	18.7
4か月	38.6	31.9
5か月	35.9	37.4
6か月	16.6	11.0
7か月	0.7	1.1
8か月	0	0
9か月	0.3	0

表3 ベビーフードの使用動機 (1978年と1991年の比較)

理由項目	1978年	1991年
離乳食として適した味だと思うから	19 (20.9)	85 (17.9)
衛生的だと思うから	18 (19.8)	57 (12.0)
栄養があると思うから	13 (14.3)	74 (15.6)
手作りは時間がかかるから	10 (11.0)	99 (20.9)
作る時間が少ないから	7 (7.7)	58 (12.2)
知人が使っていたから	5 (5.5)	18 (3.8)
なんとなく使ってみようと思ったから	4 (4.4)	29 (6.1)
その他	15 (16.5)	54 (11.4)
重複回答計	91(100.0)	474(100.0)

表4 ベビーフードを使用しない理由 (1978年と1991年の比較)

理由項目	1978年	1991年
自分で作った方が中身がわかって安心だから	27 (32.1)	76 (21.1)
食品添加物が心配だから	14 (16.7)	23 (6.4)
自然の味を覚えないから	11 (13.1)	52 (14.4)
手作りに比べて栄養が壊れていると思ったから	7 (8.3)	8 (2.2)
自分で作った方がわが家の味付けができるから	7 (8.3)	69 (19.2)
ベビーフードは味がよくないと聞いたから	6 (7.1)	28 (7.8)
衛生面で不安に思ったから	3 (3.6)	5 (1.4)
その他	9 (10.7)	99 (27.5)
重複回答計	84(100.0)	360(100.0)

表5 離乳食におけるベビーフードと手作りの開始時期  
今回の調査(1991)と前回の調査(1978)

	1978年		1991年	
	ベビーフード	手作り	ベビーフード	手作り
果汁	3.3 ±0.9	3.9 ±1.6	3.0 ±1.5	3.3 ±1.6
スープ	3.7 ±1.1	4.8 ±2.0	4.1 ±1.7	4.5 ±2.1
おかゆ	4.8 ±1.3	5.3 ±1.5	4.7 ±1.1	5.0 ±1.3
肉料理	5.8 ±1.1	7.5 ±1.4	6.0 ±1.4	7.6 ±1.6
魚料理	6.0 ±1.4	6.8 ±1.4	5.9 ±1.3	7.0 ±1.7
野菜料理	4.9 ±1.0	6.1 ±1.6	5.5 ±1.4	5.9 ±1.6

表6 出生順位によるベビーフードの使用と未使用の割合  
今回の調査(1991)と前回の調査(1978)

(1991) (%)

	ベビーフード使用	未使用	合計
第1子	47.5	9.2	56.6
第2子	23.7	10.8	34.6
第3子	5.8	2.4	8.1
第4子	0	0.3	0.3
第5子	0	0.3	0.3
合計	76.9	23.1	100.0

$p < 0.01$  ( $\chi^2$  test)

(1978) (%)

	ベビーフード使用	未使用	合計
第1子	31.1	16.7	47.8
第2子	23.3	21.1	44.4
第3子	3.3	4.4	7.8
合計	57.8	42.2	100.0



表7 職業の有無によるベビーフードの使用と未使用の割合  
今回の調査(1991)と前回の調査(1978)

(1991) (%)

	ベビーフード使用	未使用	合計
有職者 <sup>1)</sup>	13.2	3.7	16.9
無職者 <sup>2)</sup>	63.7	19.3	83.1

1) n=50人 2) n=245人

(1978) (%)

	ベビーフード使用	未使用	合計
有職者 <sup>1)</sup>	7.7	5.5	13.2
無職者 <sup>2)</sup>	50.5	36.3	86.8

1) n=12人 2) n=79人

表8 家族構成によるベビーフードの使用と未使用の割合  
今回の調査(1991)と前回の調査(1978)

(1991) (%)

	三世代家族 <sup>1)</sup>	核家族 <sup>2)</sup>	合計
ベビーフード使用	7.5	69.5	76.9
" 未使用	5.1	18.0	23.1

1) n=37人 2) n=258人 p<0.05 ( $\chi^2$  test)

(1978) (%)

	三世代家族 <sup>1)</sup>	核家族 <sup>2)</sup>	合計
ベビーフード使用	14.0	44.2	58.1
" 未使用	4.7	37.2	41.9

1) n=16人 2) n=70人

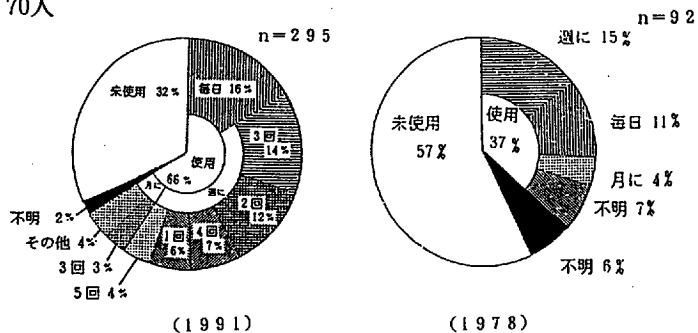


図1 ベビーフードの使用頻度

表9 食事の作り手によるベビーフードの使用と未使用の割合  
 今回の調査(1991)と前回の調査(1978)

(1991) (%)

	ベビーフード使用	未使用	合計
母	74.2	21.0	95.3
祖母と母	1.4	1.7	3.1
父と母	0.7	0.3	1.0
祖母	0.7	0	0.7

(1978) (%)

	ベビーフード使用	未使用	合計
母	53.8	41.8	95.6
祖母と母	4.4	0	4.4

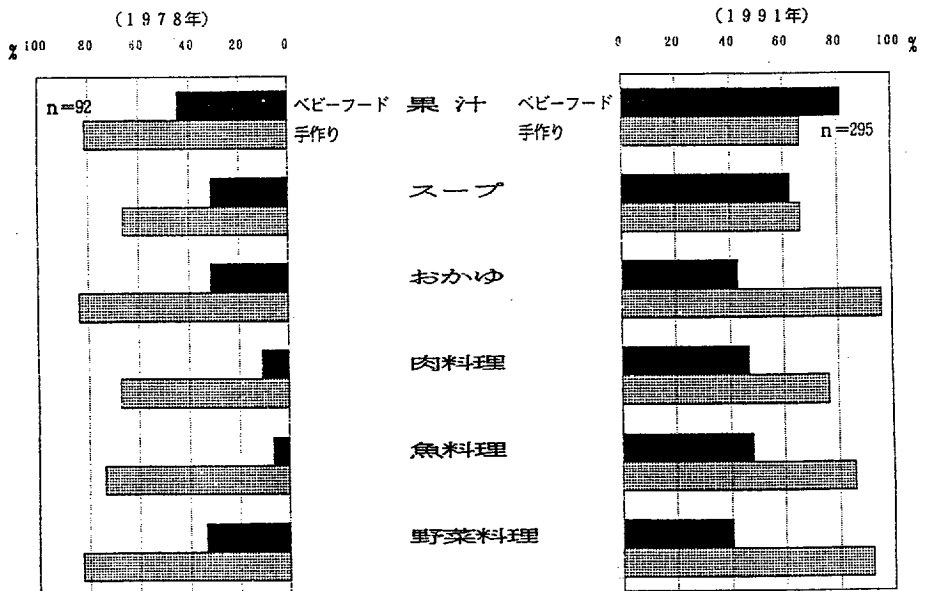
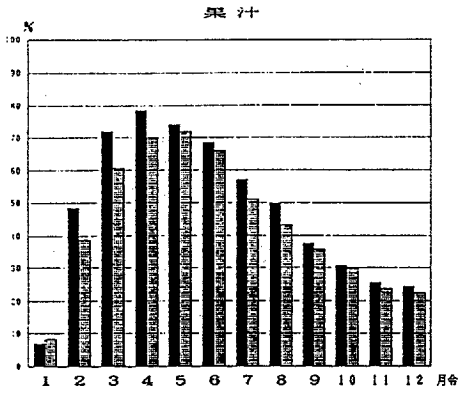
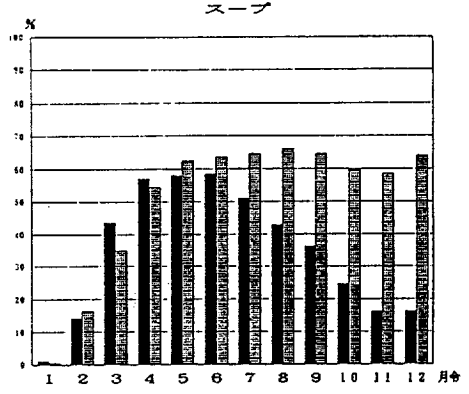


図2 離乳食におけるベビーフード利用と手作りの割合

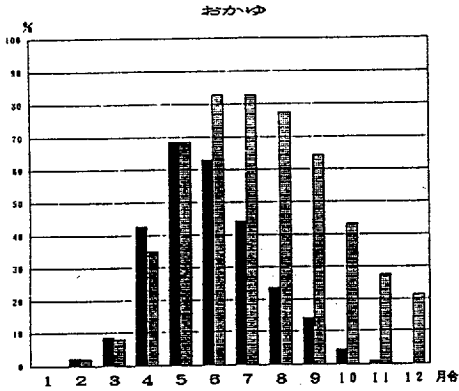


月令ごとの対象人数

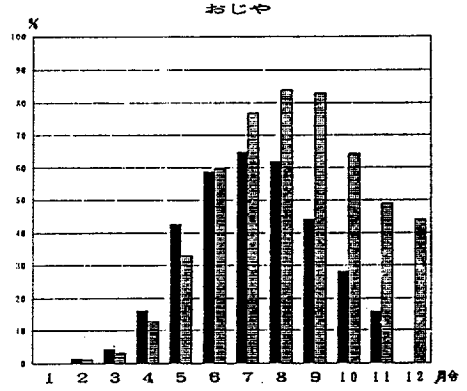
月令	1-9	10	11	12
■ ベビーフード	231	199	168	49
□ 手作り	206	181	155	44



月令	1-9	10	11	12
■ ベビーフード	184	159	136	37
□ 手作り	189	161	138	36

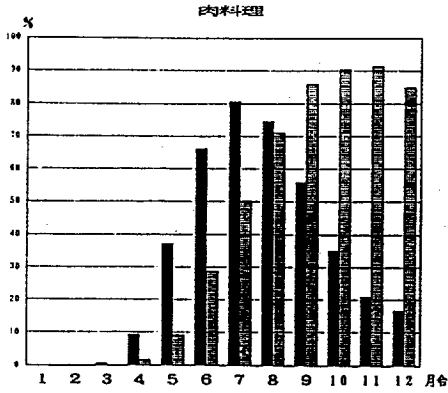


月令	1-9	10	11	12
■ ベビーフード	127	109	94	25
□ 手作り	277	236	203	56

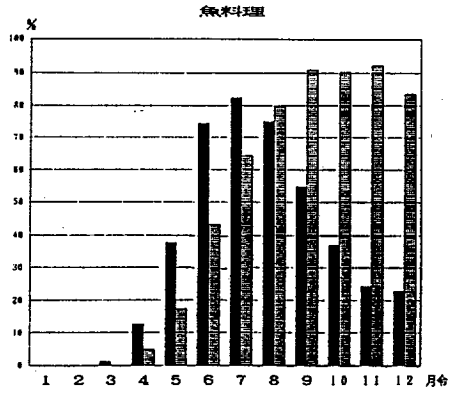


月令	1-9	10	11	12
■ ベビーフード	68	57	44	13
□ 手作り	243	209	184	50

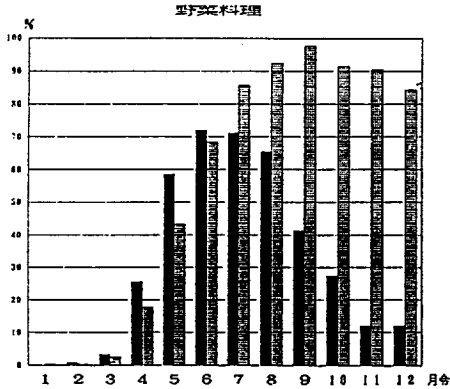
図3-1 離乳食におけるベビーフードと手作りの利用割合の月齢推移



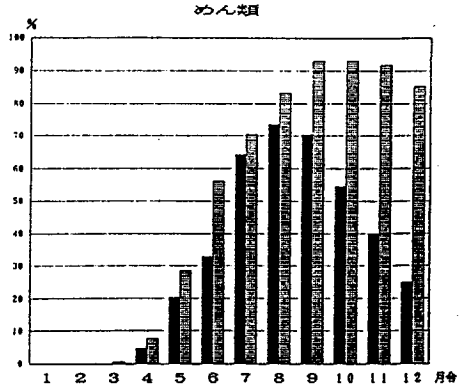
月令	1-9	10	11	12
■ ベビーフード	150	133	114	30
▨ 手作り	241	209	183	48



月令	1-9	10	11	12
■ ベビーフード	148	130	111	35
▨ 手作り	264	228	199	55



月令	1-9	10	11	12
■ ベビーフード	121	106	90	25
▨ 手作り	271	233	200	51



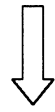
月令	1-9	10	11	12
■ ベビーフード	64	55	50	16
▨ 手作り	276	235	202	54

図3-2 離乳食におけるベビーフードと手作りの利用割合の月齢推移



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



### 要約

母子に対する栄養指導の充実・向上等を図るために、9～12 か月児をもつ母親 295 名を対象に、離乳食におけるベビーフード(市販の離乳食品)の使用実態調査を行った。約 10 年前の同地域における調査結果(1978 年、前回の調査)と比較検討した。

1. 離乳の開始時期は、前回、今回ともに平均すると 5 か月であった。また、離乳 2 回食の開始月齢は 6 か月頃、3 回食の開始月齢は 9 か月頃であった。その開始月齢にはかなりの巾がみられた。そして今回の調査結果は、離乳開始月齢のピークが若くなってきている。
2. ベビーフードの使用状況は、9～10 か月頃でみると今回は使用者が 66%、未使用者が 32% であり、前はそれぞれが 37%、57%であった。また使用者においては、ベビーフードを毎日使用する人が 11%から 14%となり、使用者の増加とともに使用頻度も増加傾向にある。
3. ベビーフードの使用動機をみると、前回より「手作りは時間がかかるから」「作る時間が少ないから」の割合が増えている。また、ベビーフードを使用しない理由をみると、「自分で作ったほうが中身がわかって安心だから」は前回今回ともに理由の第一位である。「自分で作ったほうが我が家の味付けができるから」が今回第一位となった。
4. 離乳食におけるベビーフード利用と手作りの割合は、今回のほうがベビーフードの利用割合が高くなっていた。離乳食とは言えないが果汁は手作りの割合が減り、ベビーフードで一番に利用されている。
5. ベビーフードの利用者は、核家族で、専業主婦の母親が、第一子の時に使用する傾向がみられる。